



Associação Crianças de LUZ

CANOVA

だより69 January 2022

文・写真_鈴木真由美 編集_星久美子・真野由紀 発行_光の子どもたちの会
Praia do Estevão s/n, Canoa Quebrada, Aracati-CE-Brasil CEP:62800-000
連絡先: info@criancasdeluz.org

新型コロナウイルスの影響で2020年よりオンライン授業を続けていた「カノア保育園」。2021年10月より、ようやく子ども達を保育園に迎えることができました！ 未就学児に対するオンライン授業というのは難しく、自宅から出られない状況の中で少しでも子ども達が楽しく、笑顔でいられるようにと、カノア保育園及び学童教室の先生たちとスタッフは一生懸命に取り組んできました。現地への支援が減少される中、先生やスタッフを削減するべきではないかという意見も出されました。それでも試行錯誤しながらなんとか、2021年を無事に終えられたことに安堵しています。

初めてのオンラインツアーイベントでは映像が流れない、途中で回線が切れてしまうといった、ご不快な思いをさせてしまった人たちもいました。それでも、こうしたイベントへの参加費やオリジナルカレンダー等の物品販売費があったからこそ、現地の活動を支え、続けることができました。本当にありがとうございました！ 私たちの活動は保育園や学童教室に留まらず、エステーヴァン村の全ての子ども達に向けての子どもの日のイベントや全ての世帯への食材提供など、多岐にわたりました。ブラジル北東部の小さな漁村、エステーヴァン村の住民(?)を代表して、御礼申し上げます。

また、2022年には私たち、「光の子どもたちの会」にとっても大きな転換期となります。2006年の任意団体立ち上げのときから事務局長として長年私たちの活動を支えてくれた、「堀池眞輔」事務局長が、日本事務局長を離れることとなりました。これに伴い、「光の子どもたちの会」の事務局も移転することとなります。2022年3月末を予定している総会において、皆さまの総意を経た後、日本事務局長を「藤田枝美」さんをお願いする予定です。詳しくは6ページをご覧ください。引き続き皆様からのご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

「光の子どもたちの会」の卒業生

翻訳: 鈴木真由美



Isabel Santos Rocha(イザベル)

私のことを知らない人にはいつも、「私はBel (ベル)です。」と自己紹介をしています。私の事を知っている人には、「私はBel. Isa (イザ)とBel (ベル)でIsabel (イザベル)です。」と言っています。今年の5月で22歳になります。時間が経つのはすごく早い。それでも、小さい頃の出来事、夢など、全部思い出すことができます。

生まれも育ちもエステーヴァン村です。セアラ州沿岸にある人口300人の小さな村です。すごく小さな村だったからか、私は自分の目に見えるもの全てを知りたいと思っていました。この村の外には大きな世界がある。その大きな世界を私は知りたいて思っていました。

私の幼少期はとても幸せで素晴らしいものでした。8歳まで祖母の家で、叔父たち、祖母、私の母といっしょに暮らしていました。この家で私はたくさんのことを学びました。家の手伝い、初めて学校に行った時のこと…。

2009年に初めて、母と一緒にサンパウロに行きました。母がモンチ・アズールコミュニティ協会では1年間ボランティアとして働くことになったからです。サンパウロで暮らし始めた当初は、あまりの違いに驚きました。知らない人たち、話し方(方言)、大都会。それでも学校に行き始めるとすぐ新しい友達もでき、あっという間に1年が過ぎていきました。





エステーヴァン村に戻ってから、私と母の二人だけで暮らすことになりました。その家には10年住みました。転入先の学校では友達もでき、自分の好きなことと出会いたいと思うようになりました。サンパウロで1年間生活してみた経験から、カナア・ケブラーダとの環境の違いも感じることができました。

また、たくさんの方が私の家を訪れるようになり、その人たちから多くのことを学びました。その人たちはボランティアとして外国から来ていた人たちでした。彼らは英語や芸術、音楽を教えてくださいました。私は英語を学び、真野由紀先生から日本語を2年間学びました。私の青少年期の中で一番素晴らしい時でした。本当に特別な時間で、何度も将来の夢が変わりました。

外の世界はとても大きいことを知っていたので、大きな夢を描いていました。私はもっと大きくなったら、出会ったボランティアたちのようになりたいと思いました。そのために、私ができることは、まず学ぶこと。それでも、せっかちな私は、早く誰かに何かを教えたいという気持ちから、ボランティアとして学童教室でリコーダーを教えていました。地域の楽団に所属し、子どもたち、大人たちと一緒に練習する機会もありました。本当に素晴らしい経験でした！私はアルトサクソとフルートを吹いていました。高校に入学するまで楽団を続けました。



2019年に再びサンパウロに来ました。今回は前回よりも長く、2年半住むことになりました。前回とは異なる現実に出会うことになりました。自分の夢に向かって進み始めたのもこの場所です。想像もできなかったような新たな人たちとの出会いがあり、モンチ・アズールの若者たちと家具工房や芸術クラスに参加しました。そして初めて仕事を得ることができたのです。そして大学にも受け取りました！しかし、政治的な問題があり、まだ大学生になることは出来ていません…。

今、私の将来の夢は、記者になることです。自分自身、そして他の人達の物語を書きたいのです。私は現在、ソーシャルメディア関連の仕事に就いています。人々の話を聞き、それをメッセージとして届けています。この仕事は私が本当にやりたいことではありませんが、それでも、始まりの一步だと思って取り組んでいます。パンデミック中でも在宅ワークができるので、私は、セアラ州の自分の家族の元に戻ることができました。

ここでの仕事の一つは、「光の子どもたちの会」の保育園や学童教室にボランティアとして関わることです。幼少期に学んだ場所で、11月から菜園の手入れをしています。また、アトリエも持っています。たくさん素晴らしいことを学んで、多くの人に知ってもらいたいです。アトリエは、自分の手で作り、書き、描く場所です。私自身も、「光の子どもたちの会」の学童教室でそれらを学びました。菜園を作ろうと思ったのも、保育園の子ども達の給食に出したいと思ったからです。ボランティアというのは、自分が先生やボランティアの人達から受け取ったものを、その場所に返していくことです。私は自分自身が出会ったようなボランティアの一人になれると信じて活動しています。世界をより良くしていくために。



エステーヴァン村にいる間、私はマリアさんとルシアーノさんという高齢の夫婦と一緒に住んでいます。それは今までとは異なる暮らしですが、彼らとの暮らしはとても素晴らしく、私自身がまるで彼らの娘のように感じられるからです。勇気をくれ、助けてくれ、あらゆることをしてくれます。私は今、世界の若者たちと交流できるプログラムにエントリーしています。コミュニティーリーダーになるためには、といったテーマがあり世界の人達が集まっているプログラムです。私もその仲間の一人になれるといいなと思っています！

さいごに、今回自分の歴史を語るこのような記事を『CANOAだより』に書くことができたことをうれしく思います。皆様、本当にありがとうございました。

国内活動＊Atividade no Japão

オンラインイベント「ブラジル北東部、大自然を満喫しよう！！
～エステーヴァン村を散歩、海と砂丘の上からの夕日」を開催しました

2021年8月28日に「ブラジル北東部、大自然を満喫しよう！！～エステーヴァン村を散歩、海と砂丘の上からの夕日」をオンライン開催しました。

初めてのオンライン観光ツアー。少しでもブラジル北東部の小さな漁村の魅力を伝えたいと、開催することにしました。当日は30の方が参加していただき、参加費と寄付を合わせた収益は50,000円となりました。新型コロナウイルスの影響で現地への活動資金調達が難しくなっていた中、こうしたイベントの収益はオンライン授業を実施していた現地の活動における人件費や施設維持費などを確保するために重要な資金となりました。

「豊かな自然が素敵でした」

「初めてのエステーヴァン村を体験できました」

「ノルデスチの開放感を感じることができました」

という高評価の一方、

「最初、動画が動かず、動き出してもコマ送りでスムーズな動画ではありませんでした」

「突然終了してしまうという状態でした」

「お金を徴収してこの状態はまずいと思います」

という厳しいご意見も聞かれました。

残念ながら今回のイベントは反省ばかりの結果に…途中の動画がうまく流れず、時間内にイベントが収まらなかったために最後のご挨拶もできずに終了となってしまったことで、参加いただいた皆様には、不満の残る結果となってしまったと思います。それでも、現地の自然や人々の暮らしを少しでも多くの皆様に体験していただければと思っておりますので、次回実施の際には一人でも多くの方に参加いただけるよう、努めていきたいと思っています。引き続きご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

カノア保育園20周年記念！ オリジナル卓上カレンダー2022 発売中！！

「カノアの写真で2022年のカレンダーを作ろう！」と題して行った、オンラインイベント。カノア保育園やエステーヴァン村の写真を持っている人がそれぞれお気に入りを投稿し、その写真を見た人に自分の好きな写真を選んでもらうという、おおざっぱなイベントだったのですが、ブラジルや日本のみならず、ブラジル北東部の小さな漁村、エステーヴァン村を訪れたことのある人たちも大勢参加してくれました。そしてついに、参加者に選ばれた12枚+1枚の写真を使ったカレンダーが完成しました！

カノアに行ったことがある人もない人も、ぜひ子どもたちの笑顔とブラジルの風を少しでも感じていただけたら嬉しいです。残りわずかとなっています。お早目のご購入、お願いいたします！

※このカレンダーの収益はすべて、現地での活動費とさせていただきます。

購入は
こちらから！



- 卓上カレンダー
- B6サイズ
- 壁掛けカレンダーとしても使えます



「SDGsよこはまCITY秋」オンラインイベント

「生きやすい世界へ ～ブラジルと日本の子どもと若者と共に」開催報告／川原 翼

前号で取り上げられました、「カノアで生まれ育った若者たちが自死を選んだ」という訃報が立て続けに舞い込んできました。コロナ禍のブラジルで何が起きているのか。ブラジルの高校生からアンケートを取り、今の私たちに何かできることを考えるきっかけとして、鈴木真由美さんと、真由美さんの古くからの友人であるNPO法人「ライフリンク」副代表の根岸 親（ねぎし ちかし）さんとのオンライン対談を「SDGsよこはまCITY秋」のイベントの一環として行いました。

現地の学校関係者の協力もあり、短期間で177ものブラジル人高校生から回答が得られました。アンケート結果から見えてきたものは、主に以下のようなことでした。

- ・ 「ものごとに集中できない」と答えた割合が高い。
- ・ 「この1年間、ストレスを感じたことがある」割合は日米中韓と比べると最も高く、約70%の高校生が何らかのストレスを感じており、原因として「勉強のこと」「進学や進路のこと」「容姿（身長、スタイルなど）」が上位。
- ・ そのストレスの対処法として「音楽を聴いたり、映画をみる」割合が他国と比べて高い。
- ・ 「私には心の中のことを打ち明けられる友だちがいる」と答えた割合が他国と比べて極端に低い。
- ・ 自己肯定感が高く、「保護者と一緒にいるのが好きだ」「友だちと一緒にいるときは楽しい」と答えた割合はどちらも9割を超えている。
- ・ 「友だちが私をどう思っているか気になる」「友だちに合わせていないと心配になる」と答えた割合は、他国程高くない。
- ・ 「辛いとき助けてくれる人がいる」と答えた割合が日米中韓伯の中で最も低い。
- ・ 「一人であるのが好きだ」と答えた割合はブラジルが一番高い。

アンケートの結果を踏まえ、対談の中でカノアの変化について話されました。コロナ以前は村人同士の村内でのちょっとした井戸端会議が日常のように村の至る所で行われ、実際に鈴木さんの家にもふらっと若者たち（鈴木さんの元教え子）が立ち寄り、他愛もない話をしていくといった光景がたくさん見られたそうです。しかし、コロナになり、そういったちょっとした交流ができなくなったことによって、実は寸でのところで立ち止まっていた若者たちが麻薬の売買や売春に流れてしまっているのではないかというのが鈴木さんの見立てでした。

若者が自分に自信を持って人生を生きていくためには、日本もブラジルも共通して、「自己肯定感を高く保つ」ということが大切だということは根岸さんの話から見えてきたことです。つまり、「私は私のままでいい」「社会から自分は必要とされている」といった心情です。この自己肯定感をどう高めていくかは、今の日本の教育現場でも重要視されていて、国を問わず、子どもたちや若者にとって共通の課題なのかもしれません。以前のカノアだよりでもご報告しましたが、今年オンラインでの元ボランティアと元子どもたちのオンライン同窓会が実現しました。あのイベントは、元ボランティアにとっても、元子どもたちにとっても感動的で忘れられない大切な時間となり、今も心に残っています。あのような心と心が通うイベントをまた出来ないだろうか、そして、あの場に来なかった若者たちを巻き込んでいくことはできるのか…。もしかすると、その辺りに「光の子どもたちの会」としてできることがあるのかもしれない。

対談の中では、参加者からのコメントや質問も多く寄せられ、意見を交わしたり、交流したりすることができました。改めて、今回ご協力いただいた根岸さんに感謝するとともに、今後も何かをいっしょにできたらいいなといいなとも思います。根岸さん、ありがとうございました！

カノアニュース*Novidade em Canoa

●高校生からリコーダーの寄付がありました

2021年2月。長女的美莉亜を通じて、高校生団体「UBER SMILE」より私に連絡がありました。

「高校生だからこそ、何かできるのではないか。」「子ども達の笑顔のために、僕たちで、今できる事をしたいんです。」と。

カノア保育園や学童教室の話など、現地での話を何度もした中で、彼らは、「リコーダーを集めて届けさせてください」と言ってくれました。そして2021年11月。日本事務局に30本のリコーダーが届いたのです。

新型コロナウイルスの影響で私自身ブラジルに戻れていない状況のため、まだ我が家にありますが、来年、ブラジルに戻る際にはぜひ、このリコーダーを届けたいと思っています。UBER SMILEの皆さん、本当にありがとうございました！



●「ほいくis」コラムを掲載中！

「1日3分で保育を楽しく」をモットーに、オンラインで保育士向けの情報を提供している「ほいくis」。立ち上げのときに声をかけていただき、コラムを連載させていただくようになりました。カノア保育園がどうやってつくられたか、地域の行事や子どもとの関わりだけでなく、私が保育士として伝えたいことも、その時のテーマにそってお届けしています。お時間のある時にぜひ、読んでみてください！ ご意見や感想もお待ちしています。



●日本事務局からご挨拶

初めまして、皆様の仲間入りをさせていただきます。藤田 枝美 (ふじた えみ) です。

私は・・・

- ・保育補助歴10年の主婦
- ・社会人の息子と大学3年生サッカー女子の母です
- ・趣味は御朱印帳を持ち神社巡り、料理

ブラジルについては勉強中ではありますが子ども達の力になれる様に色々な事でお手伝いできたらと思っています。宜しくお願いいたします。



日本事務局 新住所
※2022年4月より下記住所に移転

〒223-0056
横浜市港北区新吉田町
5338-23

子育て日記より

中学2年生となった二女。2年生になってから通い始めた塾をしばらく休みたいと言い出しました。話を聞いてみると、コロナが少し落ち着いて、ようやく部活も通常運転。楽しくなってきたところで、学校の勉強と部活。その生活リズムに塾までとなると、心と体がうまくついていけないとのこと。簡単に言うとそういうことなのですが、彼女が想いを打ち明けてくれた話し合いに「成長したなあ～」と、なんだか嬉しかった親としての私。そして、塾に面談を申し込むと、塾長と先生方からもその想いを受け止めたいとサポートを願い出してくれるほど…。私たちの周りには、本当に素敵な人たちがばかりいると、つくづく実感する出来事でもありました。

ばわばわと、天真爛漫な二女。彼女の成長に感動する私なのでした。

ありがとうございます＊Obrigado

2021年6月29日～2021年12月31日現在までに会費及び寄付を頂きました皆さま及び物資支援を頂きました皆さまのお名前を下記に記載いたしました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

2021年10月より対面授業となりましたが、新型コロナウイルスの影響で未だ保育園及び学童教室の活動に対して衛生用品や教材、食材への支援が必要です。現地ではクリスマスバザーの開催など、「#今できること」に取り組んでいます。引き続きご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

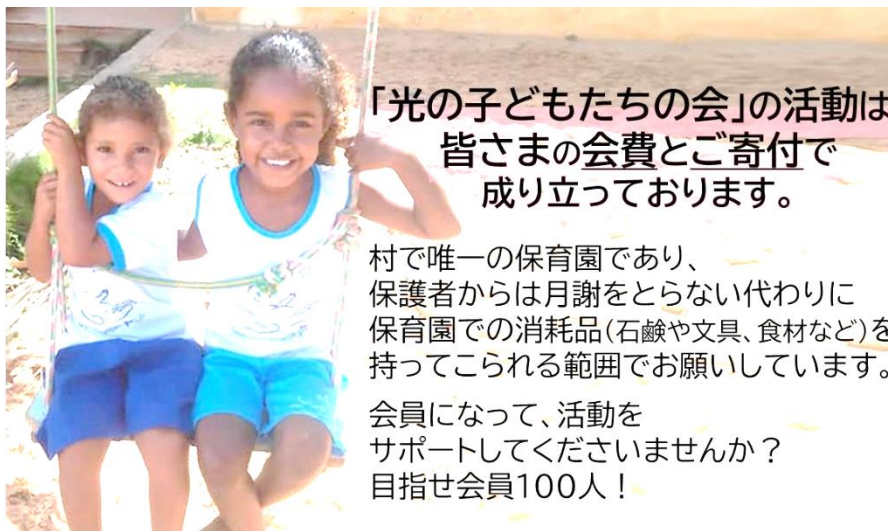
目標会員100名！！

会費及び寄付を頂きました皆様(順不同)

石田泰三 さま、石田まどか さま、稲垣由紀 さま、上田裕華 さま、太田朋子 さま、大谷タカコ さま、影山由香里 さま、加藤恵美子 さま、金本りせこ さま、桑山寛子 さま、長谷川宏 さま、馬場悠男 さま、藤本くみ さま、三浦佐千夫 さま、村上誠 さま、山下万喜子 さま

会費及び寄付を頂きました皆様

学生団体 UBER SMILE



<https://criancasdeluz.stores.jp/>

くわしくは
こちら！



年会費(5,000円)・ご寄付のお振込み方法

1. 自動引き落とし

お持ちの口座の金融機関で手続きができます。引き落とし日、金額をご指定いただけます。尚、ゆうちょ銀行からお振込の場合は以下の【2. 郵便振替】と同じ口座番号ですが、他金機関からの振込の場合には、【3. ゆうちょ銀行振込】の口座番号となりますのでご確認ください。

2. 郵便振替

口座番号 00280-1-41787

加入者 光の子どもたち・カノアの活動を支える会

3. ゆうちょ銀行振込

名義 光の子どもたちの会 店名 ○ニハ(ゼロミハチ)

店番号 928 普通 口座番号 5552594



<http://criancasdeluz.org/inicial/index.jp.html>

問い合わせ先:

代表 鈴木真由美 / 日本事務局 藤田枝美

〒221-0841 神奈川県横浜市神奈川区松本町1-7-1

☎045-321-1824 info@criancasdeluz.org

コライ(Colay)という名前で知られている、ニリアーニ(Niliane)先生から カノア保育園と学童教室の様子を伝えてもらいたと思います。

私たちは元気に過ごしています。

新型コロナウイルスの影響で、昨年引き続き、今年も私たちの活動は難しい状況でした。それでも、この文章を書いている今、2021年12月末現在はすべてうまくいっているといっても過言ではありません。パンデミックが始まったばかりの頃、私たちはとても怖く、不安でした。お店は全て閉まり、私たちは自宅にいたしかありませんでした。その後、オンラインでの授業が開始されました。しかし、私たち自身リモートで行うことは初めてでしたし、全ての子ども達の自宅にネット環境が整備されているわけではなかったため、私たちとしてどのような形でできるのかを考えなければならませんでした。



まず始めに行ったのは、動画を作成、YouTubeにアップし、子ども達に見てもらおうということ。しかしそれでは子ども達が見てくれているのかが分からず、私たちも伝えたいことがきちんと伝わっていないのではないかと感じていました。そこで、コミュニケーションツールとしてブラジルで広く使われている、WhatsAppというアプリに保育園と学童皇室のグループを作り、そこで保護者や子ども達とのやり取りを行うことにしました。私たちが送った課題（水彩画や粘土などの活動）を子ども達が行っている姿を保護者は写真や動画に撮り、共有してくれるようになりました。こうして、少しずつオンライン授業での形ができあがってきたのです。そして今、ようやく対面授業が始まりました。

子ども達が保育園や学童教室に戻って来た、その姿を見た時には何とも言えない思いがこみ上げてきました。私たちは本当に幸せで、私たちも子ども達と一緒に空間で遊び、活動をすることがとても楽しかったです。2年近くも自宅で自粛生活を続けていた子ども達でしたが、子どもというのはすごいもので、すぐに日々の生活に慣れていきました。なぜなら、子ども達は保育園や学童教室がSAUDADE（懐かしい）でした。

私たち教職員も新型コロナウイルスのワクチン接種を無事終えることができました。そのため、少しでも、安全面も確保されたと思っています。

私はカノア保育園や学童教室で働けることを心から愛しています！！

